

専門家講師プロフィール

▶谷口大造（たにくちたいそう）

（建築家）日本建築家協会会員 日本建築学会会員 東京建築士会会員

- 1964年 サンパウロ生まれ
- 1987年 東京芸術大学美術学部建築科卒業
- 1989年 東京芸術大学大学院美術研究科建築専攻修士課程修了
- 1989年 丹下健三・都市・建築設計研究所（-1996年）
- 1996年 東京芸術大学美術学部建築科 助手（-1999年）
- 1999年 スタジオトボス設立 現在に至る
- 2004年 鳥取環境大学環境デザイン学科准教授（-2010年）
- 2010年 芝浦工業大学デザイン工学科教授
- 2017年 芝浦工業大学建築学部建築学科 教授 現在に至る

主な受賞歴

- 1986年 第二国立劇場設計競技（東京芸術大学藤木研究室）入選
- 1988年 星田アーバンリビング設計競技（東京芸術大学藤木研究室）3位
- 2003年 台中市野外円形劇場設計競技(台湾)2位
- 2007年 日本建築家協会優秀建築選 2007 入選
- 2016年 塩尻市北部地域拠点施設設計者選定競技プロポーザル 優秀賞



▶関口正洋（せきぐちまさひろ）

株式会社アートフロントギャラリー マネージャー

- 1974年神奈川県生まれ。
- 1999年アートフロントギャラリー入社。



越後妻有大地の芸術祭 2000 の立ち上げでボランティアのコーディネート、ファンドレージング、制作業務などを担当。2003 年から越後妻有を拠点に、越後妻有里山現代美術館やまつだい農舞台などの文化施設の運営を担当。大地の芸術祭 2003、2006、2009、2012 の事務局も務める。2004 年の中越地震以降、空き家プロジェクトを実施。2008 年 NPO 越後妻有里山協働機構の設立準備に関わり、事務局長に就任。2014 年から奥能登国際芸術祭のプロジェクトマネージャーとして、奥能登国際芸術祭 2017、2020+、2023 の基本構想、実施計画、制作業務に関わる。令和 6 年能登半島地震以降は、芸術祭作品・施設の修繕・再開、文化・芸術の視点からの珠洲のアーカイブ制作、外部協力者と地元のコーディネート、持続的な活動のための環境整備に取り組む。

▶川村清志（かわむらきよし）

国立歴史民俗博物館 准教授

札幌大学文化学部教授をへて 2012 年より現職。

学術博士（京都大学人間・環境学研究科、2003 年取得）。

専攻は文化人類学、日本民俗学。主な著書、論文に『クリスチャン女性の生活史―「琴」が歩んだ日本の近・現代』（青弓社、2011 年）、『気仙沼尾形家（大家）の年中行事―尾形栄一日記を中心に―』（川村清志・葉山茂（共編）、国立歴史民俗博物館、2017 年）。2020 年から奥能登国際芸術祭の民俗文化アドバイザーを務める。

主要研究課題：口頭伝承の近代的展開、祭礼芸能の実践と習得過程の探求、メディアによる民俗文化の再表象過程、現代日本のサブカルチャーと伝統文化など

